



今後の活動への誓いを書いたボード

先住民の女性たちにもたらされた変化

<先住民の子どもたちの事業：担当職員からのレポート>

ミンダナオ島ジェネラルサントス市にある、ミンダナオ南部事務所の渡辺です。ジェネラルサントス市郊外のサンホセ村において、2009年より行ってきた先住民の子どもたちのプロジェクトが、今、集大成を迎えようとしています。そこで、2月18日と19日の二日間、ともに活動してきた女性たちやプロジェクトの関係者たち計55名と、評価研修を行いました。

まず、保健のグループからは、これまでの研修を通じて、地域保健員となった母親たちがハーブ薬を適切に使えるようになったこと、子どもを病気から守るために予防接種を受けさせる母親が増えたことなどの成果が共有されました。地域保健員の母親を持つ子どもは、「以前は、お母さんは家族の中であまり重要な存在と思われていなかった。地域保健員となってから、地域の人や家族に病気になった時のアドバイスをできるようになり、尊敬されるようになった。」と母親に対する周囲の変化について感想を述べました。

生計向上のグループからは、「アイキャンが来る前は、村の外の情報を得る機会もなく、外部者に土地を奪われてどんどん生活が大変になり、皆その日を生きていくのに必死だった。でも今は、工芸品の販売によって収入が向上し、子どもたちが通学できるようになった」といった、生活の改善への嬉しい声が聞かれました。さらに、「家計を支えようと立ち上がり、工芸品を作れるようになった女性たちをととても誇りに思う」、「妻に工芸品での収入が入るようになり、嬉しい」といった男性からのコメントも多く聞かれ、男性の女性に対する見方の変化も感じられました。

先住民の子どもたちの生活を向上させるためには、周囲の大人たちがその責任を果たしていく必要があります。地域の保健環境が改善され、家族の収入が向上して初めて、子どもたちが健康になり、学校に通えるようになります。今回は、保健や生計向上の成果を確認する評価の時間でしたが、住民の言葉の端々に、女性に対する尊敬の気持ちが表れており、地域の女性の地位の向上を実感する二日間となりました。



ミンダナオ南部事務所
渡辺陽子 (わたなべようこ)
～プロフィール～
日本福祉大学国際福祉
開発マネジメント学科、
長崎大学大学院・国際
健康開発研究科卒業。
日本のNGO勤務を経て
2014年3月より現職。

Project Site



<特集>

ジェネラルサントス市

※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

①路上の子どもたち (サンマテオ)



「子どもの家」の庭に花を

路上の子ども 16 名が、建設中の児童養護施設「子どもの家」の敷地内に花壇を作りました。年齢が上の子どもたちが大きなスコップで重い土や石を移動させ、年下の子どもたちは、小さな石を取り除いて土をならし、肥料と混ぜました。花を植えた後、「きれい！」と皆で喜び、「大切に育てる！」(マリアフェちゃん/9歳)といった声が聴かれました。(2月7日)

②ごみ処分場周辺の子どもたち (ケソン)



顧客の好みを知ろう

フェアトレード生産者団体 SPNP が、新商品の開発のため、主な顧客である日本人が好む色についての勉強会を行いました。日本人インターンが事前に調べたデータを共有し、フィリピン人が好む色の組み合わせとの違いを確認しました。ピビアンさん (57 歳) は、「色の勉強ができてよかった。今後作る商品の参考になる。」と語りました。(2月26日)

③災害の影響を受けた子どもたち(ドウラグ)



仮設ではなく新しい教室で

地域の労働者 280 人の緊急雇用 (キャッシュオーバーワーク) によって、24 教室の修復が完了し、建設会社による 4 教室の新設が終わりました。これにより、622 人の児童が新しい教室で勉強できるようになりました。ボロントハン小学校教師のロセリナさん (25 歳) は「雨風が入らない教室で授業をしやすくなり、とても幸せ」と笑顔で話しました。(2月27日)

今月の ICAN を増やす活動

フェアトレード事業

2月7日、8日 / 大阪

大阪ボランティアグループの活躍

ワンワールドフェスティバルに出店し、バナナ春巻きやフィリピンスープを販売しました。二日間で計 14 名のボランティアが、手書きの看板で呼び込みをするなど、大活躍してくれました。初参加の A さんは、「1 日目のみの予定でしたが、楽しすぎて 2 日目も来てしまいました」と話していました。



MY アイキャン事業

2月28日 / 名古屋

書き損じハガキの集計ボランティア

今月は、ご寄付の書き損じハガキが 19,547 枚届きました。そのカウント作業のため、計 30 名の方がボランティアに来られました。黙々とやる作業でも、「楽しい」と、継続的に来てくださる方もいます。こうしたたくさんの方の「アイキャンな人」の力によって、ご寄付をいち早く事業に役立てていくことができています。



今月の Media

新聞 3 紙への掲載がありました！

2月5日 朝日新聞(朝刊/愛知版) ミンダナオ情勢について

2月27日 電気新聞 中部電力 ECO ポイント活動について

2月28日 まにら新聞 2 棟の学校新設で平和教育を導入

今月の ICAN な人

◎ 青山さん、素敵なメッセージをありがとうございました！

マンスリーパートナー 青山岳史さん

「日本の教育現場に還元したい」

インタビュー: 2月7日

私は、JICA の青年海外協力隊としてモロッコに派遣されたのをきっかけに、世界のことを日本の子どもたちに伝えていく手法に関心を持つようになりました。その後、名古屋の NPO である NIED・国際理解教育センターの講座でアイキャンを知り、2014 年 8 月のスタディツアーに参加しました。現地では、同じ世界でこんなことが起きているなんて、と聞きするものに衝撃を受けました。しかし、色々なものを背負っているはずの子どもたちは、人懐っこく、自分たちをもてなしてくれ、パン作りも一生懸命教えてくれました。この経験を経て、悲惨な現状の悲惨さを伝えるのではなく、日本の子どもたちが同じ年代の子どもとして見るような授業を作りたいと思うようになりました。私は、「ツアーで一触れ合っただけでなく、どうやって教育現場に還元するかが大事だと思っています。まずは勤務先の小学校で総合的な学習の時間に取り入れ、自分と違う人と出会った時にどう見方ができるかを考えるところから始め、その先にフィリピンやアイキャンについても紹介していきたいと考えています。



編集者から一言: マンスリーパートナーは、月々1,000円からの一定額をご寄付いただく制度です。青山さんのように、マンスリーパートナーとして、アイキャンの活動を応援していただけませんか? 詳しくは、ホームページ(<http://www.ican.or.jp>)をご覧ください。お問い合わせください。(info@ican.or.jp)